

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	450 保健事業(市単分)	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
基本 施策	01 10万市民の健康を維持する	目	01	保健衛生総務費
		細目	240	保健事業
行革大綱の重点事項番号		細目	55	保健事業(市単分)
担当部課	コード	553000	担当者 氏名	山川理恵
	名称	伊賀支所住民福祉課	連絡先	45 - 1015 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	栄養指導が必要な市民	※対象件数
成果(どうする)	より専門的な栄養指導をうけることができ、生活習慣病等を予防できる。	
根拠法令・要綱等	母子保健法、老人保健法、伊賀市健康21計画	
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業 内容	嘱託栄養士により、乳幼児相談・健診時の栄養指導、栄養教室の開催、高齢者の食事指導等を行った。	
社会情勢 の変化等	平成18年度に「伊賀市健康21計画」が策定された。乳幼児期からの生活習慣病予防を意識した健康的な食生活の推進が必要とされる中で「地産地消と食育の推進」が重点プログラムにあげられている。また、医療制度の見直しにより平成20年度より特定健診・特定保健指導が始まった。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
栄養指導の実施回数	回	回	目標	140	目標	140
			実績	122	実績	134
			目標		目標	
			実績		実績	

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
栄養指導被指導者数	教室、健診等及び電話による相談等の被指導者数	人	目標	1300	目標	1300	
			実績	1239	実績	1276	
			目標		目標		
			実績		実績		

投入 コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	2,086	2,102	2,104	2,104
	県支出金				
	地方債				
	その他	1,097			
	一般財源	989	2,102	2,104	2,104
事業投入人件費(B)		0.1人	0.1人	0.1人	0.1人
フルコスト(A)+(B)		2,806	2,822	2,824	2,824

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		母子分野から介護予防まで栄養指導に関するニーズは増加している。栄養士による専門的な指導や相談の機会があることで、気持ちや食習慣の安定につながる。
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	不安や問題を持っていないが栄養指導を受けていないケースがあるため、積極的な声かけや広報が必要である。
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効果性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	22年度に教室や相談等の回数および対象者数などを明確化し、いつでもだけマンパワーが不足するかを把握する。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	健診や相談等で対象人数が多く、2名の栄養士では対応しきれない場合にあっては、地域活動栄養士伊賀支部の協力(当日のみ栄養士雇用)を得て、対応した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	中林 千春
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	栄養士の相談や教育等への要望も多くなっている。できるだけ各自の需要に応じた対応ができるよう体制づくりを検討しながら事業を実施する。
現時点における課題、その他	栄養指導の需要も時代や環境の影響を受けやすい。対象人数の多い教室等は、栄養士の雇用を検討していく必要がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	教室等の実施計画時に、必要に応じて地域活動栄養士の協力を得て栄養士の雇用(事業実施当日のみ)を検討していく。